

## 1 月定例記者会見の概要

1 日 時 令和6年1月5日（金）10時00分～11時00分

2 場 所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 毎日新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 朝日新聞社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ⑤ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑥ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）
- ⑦ NHK 南相馬報道室（南相馬記者クラブ会員）

計 7 社

### < 市側 >

・市長・総務部長

(テレビ会議)

- ・新田副市長・常木副市長・教育長・小高区役所長
- ・鹿島区役所長・復興企画部政策担当理事・
- ・市民生活部長・健康福祉部長・こども未来部長
- ・商工観光部企業立地担当理事・農林水産部長
- ・農林水産部整備担当理事
- ・建設部長・総合病院事務部長・教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

皆様、明けましておめでとうございます。

記者の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、市勢に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

はじめに、本年1月1日に発生した「令和6年能登半島地震」についてです。

今回の地震で犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げますとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地域の早期復旧を心よりお祈りいたします。

市では、特に震災後、職員派遣等のご支援をいただいた自治体に問い合わせを行い、中でも石川県七尾市の災害の影響が大きいと判断したことから、2日に七尾市へ職員3名を派遣し、被害状況や支援ニーズの把握などに努めました。その報告を

受け、4日には第2陣となる職員6名と給水車1台を派遣し、飲料水等の支援物資を追加送付したところです。

我々が東日本大震災で被災した際、多くの方々からご支援いただき、今日まで復興復旧を進めてくることが出来ました。これまで我々が受けたご恩をお返しする意味でも、できる支援はしっかりと実施していきたいと考えています。

加えて、4日からは義援金の募金箱を本庁舎や区役所、総合病院の窓口に設置しました。

多くの皆様からの暖かなご支援・ご協力をお願いしたいと思います。

それでは、年頭あいさつを兼ねて、市勢報告をさせていただきます。

令和5年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行され、市内では、コロナ禍で開催を見合わせていた事業やイベントが再開する動きが広まり、マスク無しの笑顔が多くみられるなど、これまでの日常生活が戻ってきたことを実感する年となりました。また、力を入れて取り組んできた子育て支援の充実については、市内外から評価され、成果が確認できた一年でもありました。

今年、南相馬市第三次総合計画の2年目となります。市民の皆様や南相馬市に関心を寄せていただいている方々へ「期待感」「ワクワク感」を感じてもらえる施策に取り組むと考えています。

ワクワク感の例として、3つの事例を申し上げます。

まずは、鹿島区における鹿島SAの周辺開発についてです。

年間100万人以上の集客を誇る南相馬鹿島サービスエリアの商業施設「セデッテかしま」が本市の強みの一つです。

この強みを活かしながら、周辺地域への波及効果を最大化できるように、周辺開発に向けた基本計画の策定並びに調査など必要となる作業を進めてまいります。

二つ目として、原町区においては、高見公園を核として、子育て関連施設を整備するとともに、周辺一帯を広く市民の憩いの場としたい考えです。令和7年4月開園に向け「はらまち認定こども園 聖桜」の建設工事が本年1月中旬から開始となります。また、令和8年度の開所を目指し、親子の交流や相談支援などの子育て支援センター機能を有した、地域子育て支援拠点施設の整備を進めてまいります。

高見公園は道の駅南相馬やひがし生涯学習センター、国道6号を挟んで市立総合病院にも隣接しています。そうした周辺施設との連携なども検討しながら、子どもや親子連れを始め、広く市民が憩うことができ、くつろげる場所を作ってまいります。

三つ目として、小高区では、本年4月に雇用就農に最適化した学びを習得できる「みらい農業学校」を開校いたします。

近年、全国的に農業の集約化が進み、雇用就農のニーズが高まってきており、この学校は、そのニーズに合わせた形の全国でも珍しい学校となります。本市の基幹産業である農業のみらいをひらくため、農業の人材育成に取り組んでまいります。

加えて、小高復興産業団地フロンティアパークや飯崎産業団地の整備を進めており、新たな雇用の場を創出してまいります。

さらに、認定こども園やNIKOパーク、小高小学校・中学校や小高産業技術高校など、教育施設がコンパクトにまとまっている文教ゾーンの良さを生かし、今

後、魅力ある教育環境を整備してまいります。また、この文教ゾーン内にある旧小高商業高校跡地については、小高区の復興・再生に寄与する可能性を持った重要な場所であることから、今後、利活用なども含めたさまざまな検討を進めてまいります。

市全体を見ると、令和6年4月からは小高区で先行して実施してきた英語教育「フォニックス」を市全域に広げるほか、2040年には市内で約4,800人に達すると推計されている認知症高齢者への対応や宇宙関連企業等の誘致などにも取り組むたいと考えています。

愚直にそして柔軟に復興や新しい挑戦に取り組む姿そのものが南相馬の強みです。本市が持つ期待感やワクワク感を更に飛躍させる年にしたいと考えておりますので、記者の皆様には、本年も市の情報発信にご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、前回11月29日の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

はじめに、第36回野馬追の里健康マラソン大会・ウォーキング大会についてです。

12月3日に開催された大会には、約2700人のランナーにご参加いただきました。またコロナ禍前に開催していた、本市出身のトップランナーやご支援を頂いている自治体の子どもたちを招待し、市内の子どもたちと交流いただく「みらい夢こども交流会」を4年ぶりに開催することができました。

次に、令和6年相馬野馬追についてです。

12月9日に相馬野馬追保存会と相馬野馬追執行委員会は、令和6年度の行事予定を正式決定し、PR用ポスターを発表しました。令和6年は猛暑による人馬への影響を考慮して、5月25日から27日の3日間での開催となります。

開催時期が2カ月前倒しとなることから、関係各所と調整を進めながら、多くの皆様にお越しいただけるよう、PRに努めてまいります。

次に、こども未来ミーティングU18についてです。

市では12月9日、小学4年生から18歳までの皆さんに、子どもの権利について知っていただき、意見を聴くため「こども未来ミーティングU18」を初開催しました。

小学4年生から18歳までの26人に、さまざまな思いや意見を伺いました。例えば「小学生がもっと分かりやすい交通ルールを学ぶ場があると良い」「キックボードやスケートボードができる場所がほしい」「カフェなど一緒に勉強できる場所や友達と集まれる場所があると良い」など、普段感じている思いを、自分たちの言葉で伝えてくれました。

こうした子どもたちの夢が実現できるよう、努めてまいります。

次に、マイナンバーカードを利用した住民票など各種証明書の交付についてです。

住民票などの証明書は、マイナンバーカードを利用するとお近くのコンビニエンスストアのマルチコピー機で取得できます。セルフ式のガソリンスタンドのように、画面のガイドに従ってご自身で発行すると、窓口発行の200円よりも安い100円で取得できます。

12月20日からは、コンビニに設置されているマルチコピー機と同様のものを、市民課フロアにも設置いたしました。

機器の操作が不安な方には、職員が操作をサポートいたします。マイナンバーカードをお持ちの方は、ぜひこの機会にコンビニ交付サービスの便利さに触れてみてください。

次に、市議会定例会についてです。

第5回南相馬市議会定例会は、12月25日に閉会しました。

この議会では、南相馬市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定をはじめ、追加提案を含む議案35件について、全て原案どおり可決、同意いただきました。

次に、移住定住に関するランキングです。

昨日1月4日に発行された宝島社「田舎暮らしの本」2024年2月号の第12回住みたい田舎ベストランキングで、本市が同規模自治体の総合部門で、昨年の8位から大幅に順位をあげ、3位となりました。引き続き、若い世代の移住促進、子育て世代に選ばれるまちづくりに取り組んでまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、二十歳を祝う会についてです。

1月7日に二十歳を祝う会を開催いたします。

平成15年4月2日から平成16年4月1日に生まれた方で、本市在住もしくは本市出身の方が対象となっており、1月4日時点で348人の方から参加申し込みをいただいている状況です。

二十歳を迎えた皆さん、おめでとうございます。

次に、東北大学との包括連携協定の締結についてです。

1月12日に、東北大学と南相馬市は地域の様々な課題に迅速かつ適切に対応し、東日本大震災及び原子力災害からの復興及び地域の活性化を図ることを目的として包括連携協定を締結します。

東北大学は「FUKUSHIMAサイエンスパーク構想」のもと、大学のリソースを最大限活用し、地元企業との連携による研究活動や、地域の高校生への教育活動などに取組まれており、本市の復興の着実な前進、地域活性化の加速化に向け、多大なるお力添えを頂いております。

今回の包括連携協定では、地域経済の復興・再生、復興まちづくり、人材育成などを協定事項としており、本市はもとより、浜通り地域の福島イノベーション・コースト構想の実現に向け、更なる推進力になっていただけるものと確信しております。

東北大学は、共に震災を経験した地元の総合大学であり、また、昨年9月には国際卓越研究大学の認定候補に選定されております。

市としては、東北大学との包括連携協定の締結により、様々な取組がより一層推進され、本市の復興を力強く後押ししていただくことに大いに期待しております。

### 【質疑応答】

#### 質問1:

令和6年能登半島地震の被災地への職員の派遣隊について、継続の予定はありますか。また、募金箱に集まった義援金は、いつ頃送金する予定でしょうか。

#### 回答1：市長

今後の支援の予定ですが、今回は支援物資を4トン車で2台送り、先ほど現地で引き渡しを行いました。また、職員を二手に分けて派遣いたしました。1組は給水車担当として、もう1組は被災地の状況を南相馬市につないだり、現地の復旧をお手伝いしたりしたいと考えています。当面の派遣期間は1週間を予定しています。第1班は1月10日までの派遣予定で、第1班の報告や被災地の支援要請等の状況を踏まえて、派遣の継続も含めて検討する予定です。

募金箱は現在、本庁舎と区役所2カ所、市立総合病院の計4カ所に設置しており、当面の間は設置を継続する考えです。送金は時期を捉えてその都度、送金したいと考えています。市からの支援金も、早急に送金できるよう準備を進めています。

#### 質問2:

令和6年能登半島地震の被災地に、南相馬市からの避難者はいますか。

#### 回答2：市長

石川県七尾市への避難者は追って情報提供させていただきます。

(確認の結果、石川県七尾市への避難者はおりませんでした)

七尾市からは震災後から約7年間、継続して職員を派遣いただくとともに多大な支援物資や支援金をいただきました。これまでお世話になった新潟県、富山県、石川県などの市町村に被災状況などを確認した結果、かなり深刻な状況と伺った七尾市に職員を派遣しています。

#### 質問3:

東北大との包括連携協定は、今回初めての締結でしょうか。また、これまでの協定と異なる点を教えてください。

#### 回答3：市長

包括連携協定としては初めてです。これまでは学部ごと、もしくは研究者や学生の皆さんなどから個別にご支援いただいておりますが、今回は大学全てを挙げた協定であると認識しております。

**質問 4:**

「住みたい田舎ベストランキング」の過去のランキングについて教えてください。住みたい田舎ベストランキングは、市としてどの程度重要視していますか。また、どのような点が評価されたと捉えているのか教えてください。

**回答 4：市長**

過去のランキング等については別途資料を配布させていただきます。

2022年のランキングから数えて今年が3年目のランクインとなります。

これまで震災からの復旧復興と帰還促進に努めてきましたが、平成28年7月の避難指示解除後、住民が帰還しても若い世代や子どもが少ないことが課題でした。これまでの帰還促進に加えて移住者を増やす施策、特に子育て世代を大切にする取り組みに力を入れてきました。

そうした中で、私たちの施策が一定のレベルに達しているのか手探りだったことから、客観的・相対的に評価いただける「住みたい田舎ベストランキング」の評価項目がマッチし、応募したところです。

今年は前回から順位が上がり、大変うれしく思っています。一喜一憂せずに関後も本当に必要な施策に取り組んでいきたいと考えています。

**質問 5:**

市長の年頭挨拶の中で、期待感やワクワク感が持てるような施策に取り組みたいとお話がありました。セデッテかしま周辺の開発や、旧小高商業高の跡地利用について、具体的にどのような未来を描いているのか教えてください。

**回答 5：市長**

これまでの復旧復興は、震災で失われたものや壊れたものを元に戻す取り組みが中心で、今後も取り組みを継続することに変わりはありませんが、震災以前からあった鹿島区のセデッテかしまに目を向けると、一時は被災しましたが、常磐自動車道の全線開通や復興の影響で当初の利用見込み数を大幅に超え、年間100万人に来ていただく施設となりました。これほど大勢の方にコンスタントに来ていただく施設は市内でも貴重です。

間もなく150万に達しようとしている利用客を、サービスエリアだけではなく市内に誘導できるようにしたいと考えています。例えばサービスエリア周辺に施設を作り、馬の文化と絡めるなど、さまざまなアイデアがあります。

ちなみにこのようなアイデアは新しいものではなく、旧・鹿島町が同様の計画を作っていました。ただ当時は常磐自動車道が1車線でしたので、まずはセデッテかしまでスタートし、利用状況を見ながら周辺部を検討することとしていました。

もう一つの小高区の文教ゾーンについてですが、認定こども園や小中学校、子どもの遊び場や体育館といった、文化スポーツ施設や教育施設がこれほど集まっている地域はなかなかないと思います。県から昨年、廃校の跡地について、地元の自治体の活用を支援するという方向性が示されました。

文教ゾーンとして施設が集まっている優位性を活かして旧小高商業高を活用できないか、県や地元の方と協議を進めたいと考えています。

以上